

# 平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 一般枠アンケート結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分数の減少に寄与する活動です。

平成 30 年度は 1,663 名の個人(一般枠)、25 団体、81 の行政と協働し、約2万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

### 1. アンケート概要

平成 30 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(一般枠)に事後調査アンケートを実施しました。

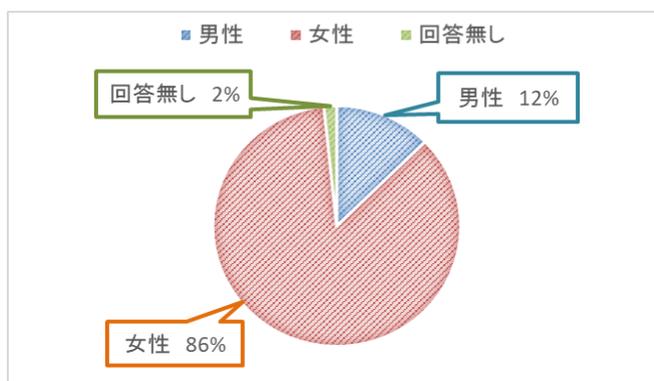
※一般枠とは：行政枠、団体枠に属さない個人ボランティア

- 平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 1,663 人
- アンケート依頼時(平成 30 年 12 月 5 日)のマイページ登録者数 2,277 件
- アンケート回答数 1,019 件(マイページ登録者数 2,277 件中)

### 2. 協働ボランティアの男女比

男性： 129 名  
女性： 873 名  
回答無し： 17 名

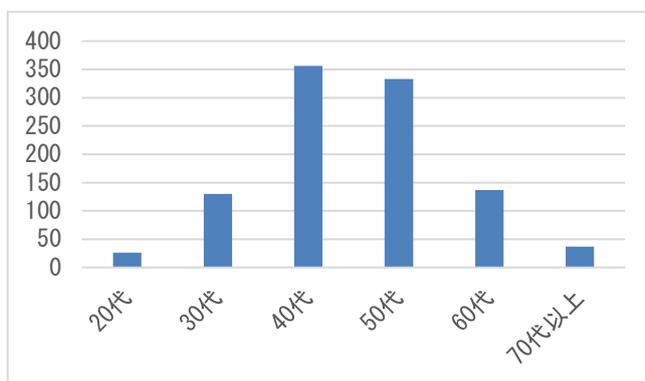
87%が女性でした。



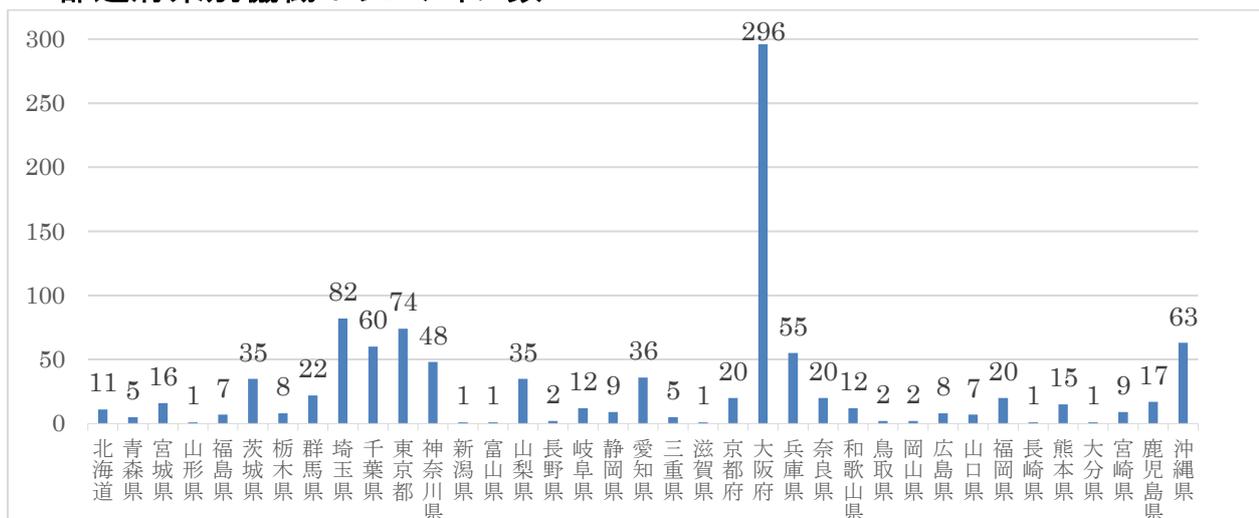
### 3. 協働ボランティアの年齢層

20代： 26 名    50代： 333 名  
30代： 130 名    60代： 137 名  
40代： 356 名    70代以上： 37 名

40代以上が85%、20代は3%でした。



#### 4. 都道府県別協働ボランティア数



29%が大阪でした。回答者のうち、さくらねこサポーターとして支援を頂いている方の実に4分の1以上が大阪で活動していることから、大阪で特にさくらねこTNRが普及していることが伺えます。各地の協力病院数や受入頭数の関係から関西、関東、沖縄県にボランティアが集中しています。

#### 5. 配布チケット数について

29年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	646	70.0%
11～30	184	20.0%
31～60	70	7.6%
61～100	19	2.1%
100～200	2	0.2%
201以上	1	0.1%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	552	60%
80～99%	164	18%
60～79%	59	6%
40～59%	41	4%
20～39%	23	2%
1～19%	8	1%
使わなかった	79	9%

60%のボランティアさんが配布されたチケットを100%使用しました。  
78%のボランティアさんが80%以上の使用率でした。

## 6. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	38	4%
いいえ	981	96%

地域猫は全体のわずか4%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	265	26.0%
1	46	4.5%
2～5	278	27.3%
6～10	199	19.5%
11～15	83	8.1%
15～20	51	5.0%
21～30	54	5.3%
31～50	27	2.7%
51～80	12	1.2%
81～250	4	0.4%

## 7. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	785	77%
猫の性格が穏やかになった	424	42%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	531	52%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	194	19%
猫の健康状態が良くなった	369	36%
その他	94	9%

その他の猫の変化としては、「猫同士が仲良く交流するようになった」、「猫の交通事故が減った」、「虐待が減った」等の意見が挙がりました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	462	45.3%
猫の数は変わらない	503	49.4%
猫の数が増えた	54	5.3%

猫の数が増えた事例では、「遺棄が増えた」、「捕獲前に雌猫が妊娠してしまった」等の報告が挙げられました。

## 8. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	369	36%
苦情が減った	280	27%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	317	31%
協力してくれるひが増えた(できた)	550	54%
地域の人に感謝された	407	40%
猫を可愛がってくれる人が増えた	311	31%
その他	129	13%

その他の変化では、「猫ボラ同志のつながりが密になった」、「地域の猫について話せる人ができた」、「猫の相談を受けることが増えた」などの回答がありました。

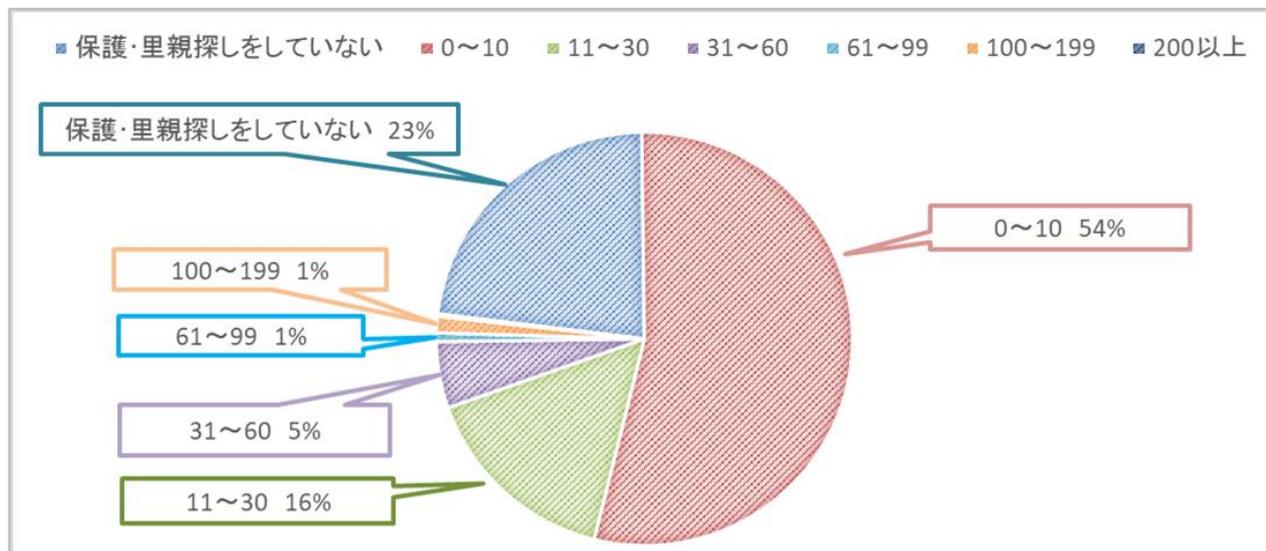
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	444	44%
変わらない	552	54%
悪くなった	23	2%

関係が悪くなった事例では、「なかなか理解してもらえない」、「ただ餌をあげていると誤解されている」などの回答があり、地域住民のTNRへの理解不足が背景にあることが指摘されました。

## 9. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	786	77%
いいえ	233	23%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
1～10	529	50%
11～30	160	17%
31～60	53	5%
61～99	7	3%
100～199	13	1%
200 以上	2	0.3%
0	22	24%



786名(77%)の協働ボランティアさんが10,295頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	125	12.3%
1	82	8.1%
2～5	371	36.4%
6～10	210	20.6%
11～15	91	8.9%
15～20	56	5.5%
21～30	42	4.1%
31～50	29	2.8%
51～80	9	0.9%
81 以上	4	0.4%
101 以上	0	0%

## 10. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	536	53%
資金不足	797	78%
捕獲がうまくできない	348	34%
行政との調整	359	35%
地元地域との調整	512	50%
その他	89	9%
特になし	41	4%

その他の課題として、「捕獲後や手術後の預かり場所が足りない」、「マナーを守らないえさやり」、「多頭飼育崩壊」、「猫を捨てる人が後を絶たない」、「行政の協力不足」などの回答がありました。

## 11. 飼い猫の捕獲について

30年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	83	8%
いいえ	936	92%

アンケート回答者 1,019 名のうち 83 名(8%)が、飼い猫が捕獲機に入りましたと回答。通常は、飼い猫と確認できた時点で、手術はせずに元に戻すのですが、去勢済みだった 1 頭(0.008%)が間違っ て耳カットされました。

### 質問:間違っ て手術した猫について、飼い主とはどう解決しましたか？

去勢済みだったが耳カットされていなかった。耳カットした後に飼い猫であったことを知り 飼い主さんに謝罪しにいったところ、さくらねこ事業を知っていただくことができた上、感謝されました。

## 12. ピックアップコメント

- 近所の身寄りのない猫たちを見かける度に心を痛めておりました。さくら猫ことを知って、微力ながらかわいそうな猫を減らすことができると捕獲、手術をさせて頂きました。ありがとうございます。
- 私が活動しています地域では市からの助成金制度もあるのですが、メス猫の手術代はたいい高額で助成金の範囲で実施して下さる病院は数少なくかなり遠方にありとても苦労していたところ、どうぶつ基金で実施してくれる病院が近隣にあることがわかりその後の活動がとてもスムーズになりました。TNR には体力と精神力が必要でそこにさらに遠方へ通う拘束時間または金銭的負担が増えてしまうと本当に続けることが難しかったと思います。本当にありがとうございます。
- 近所や職場の近くでみかけるガリガリにやせ細った猫ちゃんを半年以上かけ、少し馴らし、手術に連れてゆくために日々努力しております。今までは自費で行っていましたが、自宅にも保護猫ちゃんがたくさんおり、里親さんが見つかるように、家猫ちゃんとしての生活に慣らしております。餌やりの時には、主に男性のおじさんですが、どなられたりするので、見つからないように素早く餌を与え、立ち去ったりします。もちろん、後片付けは必須です。命あるものは皆一緒です。共存し、住みやすい世界にしたいものです。1 匹でも救える命を大切に、不幸な動物を殖やさないように、小さなことですが、努力しております。現在、ガリガリだった猫ちゃんは、ふつくと可愛い姿になってきました。とても嬉しいです。

- ”猫が少なくなった”と感謝されました。また、私(達)がTNRや保護をする姿を見て、自分でも保護をしよう、TNRをしようという方が出てきました！
- 今までご飯をあげていなかったけれど、サクラ耳になったことで猫にご飯をあげているという人が近所に4人もいることが判明。中には家に入れてもらえるようになり半家猫化している猫も。一人暮らしのお年寄りが寂しくて未手術の猫にご飯をあげていた為に猫が増えていた現場でしたが、今は猫も人も安心して暮らしています。当初は我が家で外猫6匹の餌やりをしていましたが今では2匹となりました。
- 先日、痩せた人懐っこい猫の保護をしました。手術済みのオスですが、あまりにボロボロの毛並みなので野良猫だろうと思いましたが、近隣にお話を伺ったところ、近くの方の飼い猫で 16 歳の高齢だとわかりました。数週間探し回っていたとのこと、泣きながら感謝していただきました。本当に良かったです。
- 交通事故に遭って動けなくなっている猫がいる、、、と行政から連絡が入りました。耳カットをしていることで近くで活動している私に「知ってる猫ではないか？」ということでした。保護を申し出、愛護センターに搬送途中で引き返してもらい引き取ることにしました。去年 TNR した猫でした。耳カットのある猫は殺処分されないと聞いたことがありますが、こうやって管理している人を探してくれるんだな。。。と耳カットの重要性と耳カットすることでつながる命があるんだと実感しました。
- 皆様にさくら猫がだいぶ浸透してきたようでお疲れ様！ありがとうございます！頑張っってね！とお声をかけていただけようになりました。
- 管理会社経由のクレームチラシがなくなりました。
- 個人で活動しているので、日頃の活動出費に加え、不妊手術時の出費は苦しく、こちらで無料チケットを頂ける事に本当に感謝しております。いつか、活動が出来なくなりましたら、今度はそんな方々の為に寄付をする立場になりたいと思います。今を支えて下さる団体・個人の方々に心より感謝致します。

### 13. 総括

- 地域住民との関係では、「地域の住民に感謝された。地域で活動をしたいという希望者が現れた」、「近所の人から、猫に対する優しい声かけが聞こえるようになった」、「もう増えないから今いる子たちを見守っていく、という住民の理解が増えた」といった好ましい変化が多く報告されている一方、「無関心な人が多い」、「野良猫に関わっているというだけで苦情が出る」といった報告の他、ごく少数ではありますが、避けられたりいやがらせをされるようになったという声もありました。「住民と猫ボランティア(あなた)の関係は」の質問に対し、54%が「変わらない」と回答していることから、一般の市民の野良猫への関心の低さ、そして「さくらねこ」や「TNR」の認知度そのものがまだまだ低いことがうかがえます。
- 周りに知らせず一人で活動しているという回答者や、意識的に人目を避けて隠れて活動しているという回答者も散見されました。このように大々的に活動しないボランティアの方々は、住民の理解不足から心無い言葉を浴びせられたりいやがらせをされたりするのを避けたいものと推察されます。一方で、「命と向き合う愛護活動は1人では行き詰ってしまう事ばかりです。そんな中、里親さんとの出会いや一緒に活動してくれる仲間が出来た時、人の優しさを身に染みて感じます。動物を通じて人と人も感謝で繋がる事は素晴らしい事だと思います」、「苦しい事の方が多い TNR 活動ですが、劣悪な環境の TNR をしていたら、気付くと近隣の方達が手伝っていて下さいました。こんなにも沢山の人が、猫達に寄り添ってくれるんだ！と、胸が熱くなりました」といったエピソードに込められているように、個人の枠を超えて活動の輪が広がっていくことで得るものは大きく、非常に多くの喜びの声が届いています。
- 回答者のうち、行政に認められた地域猫活動地域で活動している例は 4%に留まり、地域猫活動の普及の難しさが顕在化しました。合意形成に時間を要する地域猫活動の認定を待つ間も、不幸な命は生まれてきます。認定地域外での協働ボランティアによる TNR 活動は、どうぶつ基金の提唱する TNR 先行型地域猫活動の実践です。TNR の実施をきっかけとして、住民の理解が進んだり協力者が増えたりと、その後の地域猫活動の土台となる好ましい変化も表れています。行政がボランティアの力を最大限活用し、TNR 先行型地域猫活動に協力する形で普及啓発や制度の見直しを行えば、個人ボランティアへの負担も軽減され、不幸な猫を救う活動は飛躍的に拡大を望めるでしょう。また、マナーを守らないえさやりや、未手術の猫への無責任なえさやり、不妊手術をしていない猫の放し飼い、そして捨て猫など、人の行動によって不幸な猫が増えてしまっているのが現状です。TNR 先行型地域猫活動の普及啓発と並行して、猫の飼い方や野良猫との接し方についても、市民の理解を得るための官民連携の啓発活動や法的枠組みの整備が望まれます。